



## はじめに

由利本荘市長 柳田 弘

平成17年3月22日、本荘市、由利郡矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町及び鳥海町が合併し、ここに『由利本荘市』が誕生いたしました。

歴史は繰り返すと諺にありますが、この地域については六国史のひとつ『続日本紀』<sup>しよくにほんぎ</sup>宝亀11年(780年)で、初めて由利として登場いたしました。幾多の変遷を経た後、中世後期の1世紀にも及んだ戦国期に、この地は12人もの旗頭が群雄割拠する、所謂由利十二頭時代<sup>いわゆる</sup>の治乱興亡が繰り返されました。

やがて、慶長7年(1602年)に本城満茂のもと由利はひとつにまとめられ、それにより本城城下が創建されました。しかし、元和9年(1623年)に由利は再び、本荘、亀田、仁賀保及び矢島に分割され、寛永17年(1640年)に生駒高俊が矢島1万石に転封されるに及び、以後由利は、本荘、亀田及び矢島の3藩による統治が明治4年(1871年)の廃藩置県にまで続いておりました。

かつて、この地で12人もの旗頭が群雄割拠し、また3藩時代が永続したことは、全国的にも、歴史的にも希有のことです。歴史は糾える縄の如く繰り返されています。<sup>あざな</sup>

由利八郎や本城満茂の由利がひとつになったように、地域住民が一体となった努力により、平成17年(2005年)3月22日、かつて3藩であった1市7町は、新たに由利本荘市として誕生いたしました。まさに、新しい時代に向けた中核都市としての門出であります。

現在の地方自治体においては、地方分権が実行の段階となり、住民に身近な事務を担う市町村の役割は、ますます重要となっています。特に、少子高齢化、環境問題や情報化の進展といった多様化・高度化する行政課題に的確に対応しながら、国・地方とも厳しい財政状況下において、自己決定、自己責任の原則のもとで、行政サービスの維持・向上を図ることが極めて重要かつ緊急の課題となっています。さらに、昭和の大合併から半世紀を経て、住民の生活行動範囲は当時と比較にならないほど大きく広がっており、平成の新しい時代に即したまちづくりに積極的に取り組まなくてはなりません。

本書は、1市7町が合併に至るまでの背景や経緯をまとめ、また、『人と自然が共生する躍動と創造の都市』<sup>まち</sup>由利本荘のまちづくりを進めるための指針をして発刊するものであります。

このたびの合併に際し、深いご理解と一方ならぬご尽力を賜りました市民の皆様や関係各位に深甚なる感謝と敬意を表しまして、序とさせていただきます。

平成17年10月

# 第1章 新市の概要

## 1 位置と地勢

新市は、秋田県の南西部に位置し、南に霊峰鳥海山、東に出羽丘陵を背し、中央を一級河川子吉川が貫流して日本海にそそぐ山と川と海の美しい自然に恵まれた地域であり、鳥海山と出羽丘陵に接する山間地帯、子吉川流域地帯、日本海に面した海岸平野地帯の三地域から構成されています。

新市は、北は秋田市に、南はにかほ市に、東は大仙市、横手市、湯沢市地域等にそれぞれ接しており、県都秋田市には20km～60kmの圏内となっています。

また、JR羽越本線と国道7号が南北に並走し、国道105号、107号、108号などの起・終点となっています。



## 2 気 候

気候は、県内では最も温暖な地域ですが、海岸部と山間部では気象条件が異なり、特に冬季においては、積雪量に大きな差がみられます。

## 3 面 積

面積は、1,209.04km<sup>2</sup>（東西約32.3km、南北約64.7km）で、県の面積の10.7%を占めています。

地目別では、山林が約903km<sup>2</sup>で74.7%を占め、次いで農用地が約150km<sup>2</sup>、12.4%であり、宅地は22km<sup>2</sup>で、わずか1.8%に過ぎない状況です。

## 4 人口と世帯

平成12年の国勢調査による新市の人口は92,843人ですが、昭和60年の国勢調査人口96,589人を境にして減少に転じています。

平成7年国勢調査と平成12年国勢調査の人口を比較してみると、1,567人、約1.7%の減となっています。

また、年齢3区分別人口の推移をみると、少子・高齢化の進展が顕著であり、年少人口の構成比率で、昭和55年20.6%と、平成12年14.3%を比較すると6.3ポイント減少しており、逆に老年人口の構成比率では、昭和55年11.0%、平成12年23.9%で12.9ポイントと大幅な増加となっています。

世帯数は人口の減少にかかわらず増加が続いており昭和55年と平成12年を比較すると世帯数で3,3483世帯、約13.7%の増加となっていますが、一世帯当たりの人員では昭和55年3.91人、平成12年3.34人と年々減少しており、世帯の少人数化や核家族化が進行しています。

### 人口と世帯の推移（国勢調査）

（単位：人、世帯）

区 分	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総 人 口	95,748	96,589	95,489	94,410	92,843	91,040
世 帯 数	24,457	24,860	24,994	26,260	27,805	29,595
1世帯当たり人員	3.91	3.89	3.82	3.60	3.34	3.08

（H17は3月22日現在）

### 年齢3区分別人口の推移（国勢調査）

（単位：人）

区 分	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
総 人 口	95,748	96,589	95,489	94,410	92,843
年少人口0～14歳	19,797	19,714	17,966	15,560	13,316
（％）	20.6	20.4	18.8	16.5	14.3
生産年齢人口15～64歳	65,456	64,325	62,347	59,959	57,360
（％）	68.4	66.6	65.3	63.5	61.8
老年人口65歳以上	10,494	12,550	15,154	18,891	22,162
（％）	11.0	13.0	15.9	20.0	23.9
年 齢 不 詳	1	0	22	0	5